

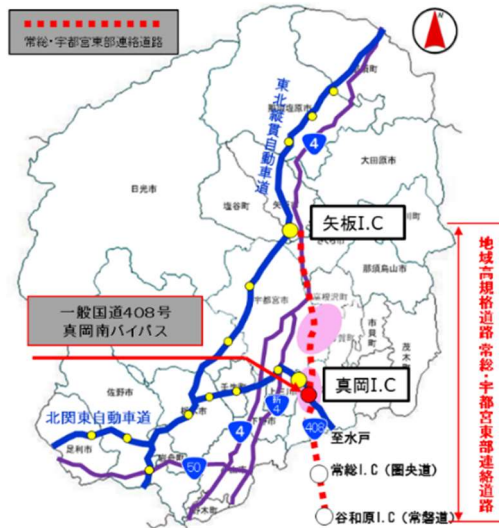
道路事業の再評価概要書

() は、前回評価時

番号		事業主体	
		栃木県	
事業名	快適で安全な道づくり事業	事業所管課	県土整備部 道路整備課
路線・河川名	一般国道 408号	事業箇所名	真岡市 真岡南バイパス
事業区間	真岡市寺内 ~ 長田	事業延長	3,480m (3,100m)
H26年度事業化		H27年度用地着手	
H28年度工事着手			
事業期間	(R2年度) H26年度 ~ R7年度	事業進捗状況	基準年次：【令和2年度末時点】 進捗率
[うち用地補償費]	[32.6 (32.6) 億円]	[うち用地補償費]	[32.6 億円] [100%]
全体事業費	140.0 (87.0) 億円	既投資事業費	87.0 億円 62%
事業概要			
<p>一般国道408号真岡南バイパスは、常磐自動車道谷和原 I.C を起点に、宇都宮東部地域を經由し、東北縦貫自動車道矢板 I.C へ至る地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成しており、北関東自動車道真岡 IC へのアクセス強化を図るなど、本県経済を牽引する鬼怒川左岸工業団地群の産業活動を支える重要な道路である。</p> <p>当該バイパスについては、車線数を4車線、県道真岡上三川線との交差形式を立体交差として平成3年2月に都市計画決定しているが、整備効果を早期に発現させるため道路ネットワーク構築を優先することとし、暫定形(用地：4車線、工事：暫定2車線等)での整備を進めており、令和3年3月に供用予定である。</p> <p>こうした中、当該バイパス前後区間が既に完成4車線で整備済(一部整備中)であること、現在においても県道真岡上三川線との交差点(真岡 I.C 南交差点)で渋滞が発生していること、更には、周辺において新たな産業団地の開発等が進められており、交通需要の増大が見込まれることから、円滑な交通を確保するため、車線数を4車線、真岡 I.C 南交差点を立体化として整備を進めていく。</p>			
事業を巡る社会経済情勢の急激な変化、技術革新、事業計画の大幅な変更 等			
<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の変更：車線数 暫定2車線⇒完成4車線 真岡 I.C 南交差点の交差形式 暫定平面交差⇒完成立体交差 事業延長 3,100m⇒3,480m ・事業費の増額：87億円⇒140億円 ・事業期間の延伸：令和2年度⇒令和7年度 			
事業の投資効果			
1 費用対効果分析結果		【総便益 (B)】	【総費用 (C)】
(1) 事業全体 B/C = 1.9		262 億円	136 億円
(2) 残事業 B/C = 3.2		147 億円	46 億円
2 事業の整備効果等			
<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞緩和による交通の円滑化 ・鬼怒川左岸地域の産業支援 ・北関東自動車道真岡 I.C や圏央道常総 I.C へのアクセス強化 			
事業の進捗状況等			
1 事業の進捗状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・用地については令和2年度末までに完成形にて全て取得見込み ・令和3年3月に暫定2車線で供用予定(真岡 I.C 南交差点は平面型式) 			
2 今後の事業進捗の見込み			
<ul style="list-style-type: none"> ・4車線化及び真岡 I.C 南交差点の立体化(令和7年度の整備完了) 			
コスト縮減等			
1 コスト縮減方策			
<ul style="list-style-type: none"> ・橋梁の床版に、耐久性が高く維持管理の省力化が図れる合成床版の採用を検討する。 			
2 代替案立案等の可能性			
<ul style="list-style-type: none"> ・4車線等で都市計画決定され、用地も全て取得が見込まれていることから、代替案立案は困難 			
事業の対応方針(案)		今回計画案で事業を継続する。	

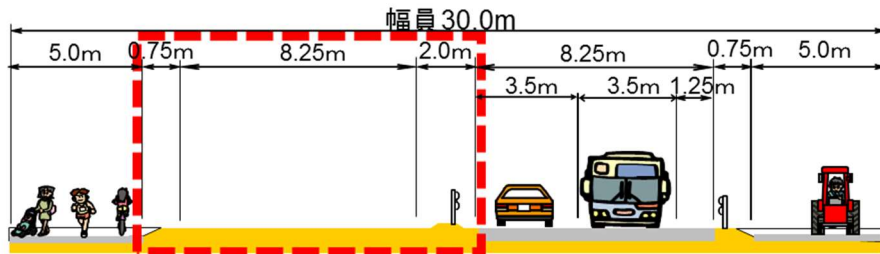
事業箇所（位置図・概要図）

位置図

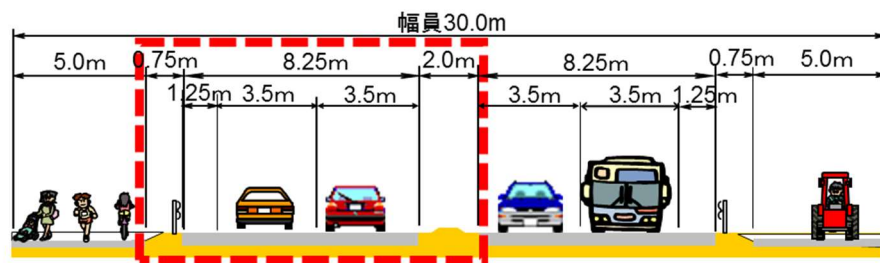


標準横断図

前回評価時



今回変更



概要図

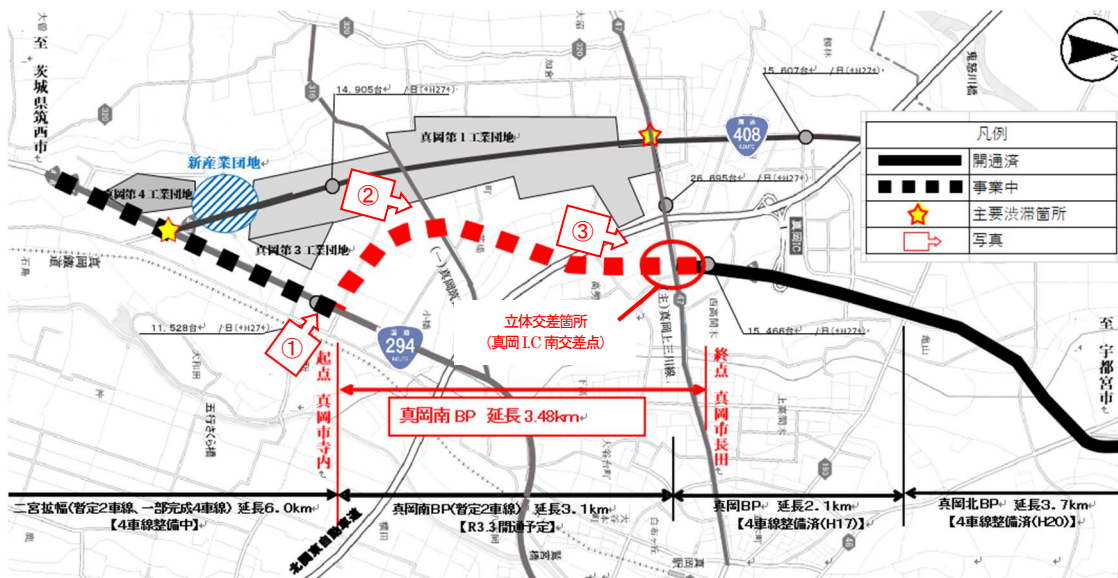




写真1：起点側（国道294号取付部）



写真2：中間部（（一）真岡筑西線付近）



写真3：終点部（（主）真岡上三川線交差部）